

先生のための 特別鑑賞の時間 2018

今年度のプログラムは、展覧会鑑賞と解説を中心に、鑑賞授業案について意見交換を行う「鑑賞編」と、美術館の外でのワークショップを体験していただく「特別編」を実施します。

- 会場 神奈川県立近代美術館 葉山
横浜市民ギャラリー（第8回のみ）
- 期間 2018年5月より2019年2月まで（全10回）
- 内容 裏面をご覧ください。
なお、日時や内容は変更となる場合があります。
- 対象 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校、
教育委員会、社会教育施設（公民館等）、
学習支援を目的とする非営利団体等に所属し、
教育活動に従事する方
- 参加費 無料（駐車場は有料となります）
- 申込方法

神奈川県立近代美術館ウェブサイトの
「先生のための特別鑑賞の時間」申込フォーム
より、開催日1週間前までにお申込みください。

[URL] <https://shinsei.e-kanagawa.lg.jp/kanagawa/uketsuke/dform.do?acs=kansho>

※やむをえず欠席の場合は、必ずご連絡をお願いいたします。
無断キャンセル等が続く場合、参加をお断りする場合があります。

※「Museum Box 宝箱」の貸し出し、学校などへの出張授業、団体来館時の解説などの相談も承ります。お気軽にお問い合わせください。

【問合せ】 神奈川県立近代美術館 葉山

〒240-0111 三浦郡葉山町一色2208-1

tel. 046-875-2800

fax. 046-875-2968

神奈川県立近代美術館

The Museum of Modern Art,
Kamakura & Hayama



神奈川県立近代美術館 葉山へのアクセス

JR横須賀線「逗子」駅前（3番のりば）または京浜急行「新逗子」駅前（南口2番のりば）から京浜急行バス「海岸回り（逗11、12系統）」に乗車し「三ヶ丘・神奈川県立近代美術館前」で下車。所要時間約20分。



※鎌倉別館は改修工事のため2019年9月（予定）まで休館しています。

日 時	内 容
第1回 鑑賞編 5/19(土) 10時—12時30分	企画展「ブルーノ・ムナーリ こどもの心をもちつづけるということ」 展覧会鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等 ブルーノ・ムナーリ(1907-1998)は、美術の新しい在り方を模索し続けつつ、デザインや絵本、遊具、さらには著述などでも活躍したイタリアを代表する美術家です。本展では、日本初公開となる約150点を含む約320点のムナーリによるさまざまな作品を展示することで、このユーモアに富んだ稀代の表現者の全貌に迫ります。
第2回 鑑賞編 6/2(土) 10時—12時30分	コレクション展「抽象の喜び」 展覧会鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等 20世紀を通じてダイナミックに展開した抽象絵画。日本では1920年代に村山知義が革新的な作品を発表し、1930年代には吉原治良や村井正誠が独自の表現を切り拓きました。戦後は斎藤義重が概念の抽象絵画化を試み、今井俊満や堂本尚郎らが大作を描きました。日本の抽象美術の多様で豊かな表現世界を22点の所蔵作品で紹介します。
第3回 鑑賞編 6/23(土) 10時—12時30分	コレクション展「絵ってとまっているのかな？」 展覧会鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等 「平らな面」の上に、線が引かれて形をつくり、色が塗られて壁にとまっている「もの」。「絵画」や「写真」は動かないものと思いませんか。色と色の響きあい、描かれた形の立体感、迫力ある自然描写などによって、絵は見る人の眼のなかで生き生きと動き出します。静かなエネルギーがみなぎる作品たちが夏の展示室で待っています。
第4回 鑑賞編 7/14(土) 10時—12時30分	企画展「国立民族学博物館コレクション 貝の道」 展覧会鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等 国立民族学博物館のコレクションから、世界のさまざまな民族によって作られた貝細工約160点を、美術館の空間で展示します。博物資料とされる貝細工が持つ豊かで独自の「造形美」に着目しながら、それぞれの貝細工が生み出された社会・生活文化を理解し、私たち人間と貝とがどのような関係を育んできたのかを問い直します。
第5回 特別編 9/22(土) 10時—12時30分	「野外彫刻を使った鑑賞プログラム」 当館の野外庭園には約20点の様々な素材からなる多彩な彫刻が常設展示されており、展示室に入らなくても美術品を自由に鑑賞できるようになっています。この回では、そうした野外彫刻などを活用した様々な鑑賞プログラムを体験します。
第6回 鑑賞編 10/13(土) 10時—12時30分	企画展「アルヴァ・アアルト——もうひとつの自然」 展覧会鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等 20世紀フィンランドの建築家アルヴァ・アアルト(1898-1976)は、自然を究極的なモデルと考え、素材やフォルムに採り入れて、自然と共存する建築を造りました。本展覧会では300点以上の作品、ヴィンテージ・プロダクト、資料などを紹介します。
第7回 鑑賞編 11/10(土) 10時—12時30分	コレクション展 描かれた「建物」 展覧会鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等 当館の所蔵作品から建築をテーマに作品を紹介します。建築は、歴史や国によってさまざまな形を示すもので、都市の風景を構成する重要な要素であると同時に、芸術家の空想力を刺激するテーマとしても重要なものでした。本展では、旅先の風景、遺跡、架空の世界といった、古今東西の「建物」が登場する絵画や彫刻約70点を展示します。
第8回 特別編 12/1(土) 10時—12時30分	「美術作品をどのように見て、語り、評するか？」 共催：神奈川県女流美術家協会 会場：横浜市民ギャラリー（※開催場所にご確認ください） 第58回神奈川県女流美術展出品作品から、参加者がそれぞれに高く評価する作品を選び、意見を交換することで、価値の共通性と多様性、あるいは評価を求められることについて考えます。
第9回 鑑賞編 2/2(土) 10時—12時30分	企画展「堀内正和展 おもしろ楽しい心と形」 展覧会鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等 堀内正和(1911-2001)は、身体の一部や幾何学図形など、身近なものの形をヒントに制作しました。「のぞく」ことで完成する「IKOZON」彫刻をはじめ、独自のエロスや諧謔性に富む作品は思わず笑みを誘います。本展では、完成作とともに、制作過程が記された未公開スケッチやメモなども紹介します。
第10回 鑑賞編 2/23(土) 10時—12時30分	コレクション展「モダンなフォルム」 展覧会鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等 当館の名称にも含まれる「モダン(近代)」という言葉。一般に「現代的」、転じて「洒落た」ものを指して使われ、一方でこの言葉自体がもはや「レトロ」な響きをも感じさせますが、本来は「新しさ」を意味する言葉です。絵画から彫刻、工芸やデザインまで、20世紀の各時代に作家たちが試みた「新しさのかたち」を展覧します。